

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.79

2011.12.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.79 目次

「東日本大震災における動物たちの現状」参加報告	2-4
「さくら ～原発被災地にのこされた犬たち～」(馬場国敏・作)のご紹介	4
「2001 動物感謝デー in JAPAN」参加報告	5
「ABiCo ～Asia Birds Convention～」 参加報告	6-7
<神奈川支部報告>日本獣医生命科学大学獣医学科 5 年生特別実習	8-9
平成 23 年度「油等汚染事故対策水鳥救護研修 (現地研修)」開催案内	10
「水鳥救護研修センター」(東京都日野市)周辺で採集された昆虫	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	12

「東日本大震災における動物たちの現状」参加報告

WRV事務局

去る10月29日(土)、麻布大学の大学際におけるイベントの一環として、標記タイトル名のシンポジウムが、同大学8号館・8401会議室にて開催されました。

シンポジウムにつきましては、麻布大学同窓会が中心となって企画・運営されておりましたが、WRVの新妻会長が同窓会の交流委員、ならびに「麻門会」の名誉会長を務めておられることもあり、本イベントに関しましても中心的な役割を果たしておられました。

当日はまず、麻布大学を代表して、政岡俊夫学長が挨拶に立たれたあと、今回の主催者側の責任者である柴野正雄・同窓会長の挨拶が続き、本題へと入っていきました。



麻布大学・政岡俊夫学長のご挨拶



兵藤哲夫先生 (コーディネーター)

シンポジウムのコーディネーターにつきましては、わが国の動物福祉分野において中心的な役割を果たしておられる兵藤哲夫先生が務められ、さっそく4名のパネラーの紹介がなされたあと、各パネラーからそれぞれ基調講話(報告)が行われました。

その中でまず、福島県・吉田家畜診療所の吉田昭先生より、福島県の家畜全般に渡る震災や津波、そして原発事故の影響について、今日までの状況に関する報告がありました。牛、豚、鶏、そしてダチョウに至るまで、多くの家畜農家が壊滅的な被害を被り、放置せざるを得なくなったそれらの家畜動物たちの多くが命を落とすなか、一方で何とか生き延びたものたちが、誰も立ち入れなくなった集落や街なかを彷徨している様子なども映し出され、現場の深刻な状況が臨場感を持って伝えられました。また、学校の飼育動物たちも数多く犠牲になったことが挙げられ、その影響の大きさは計り知れないようでした。同時に、今後の援助や補償の必要性について強く要望しておられました。



パネラーの先生方



会場の様子

次に、神奈川県厚木市・(有)豊浦獣医科クリニックの大井宗孝先生より、特に東日本大震災が養豚業に与えた影響について語られました。豚に対する直接的な被害はもとより、豚に与えられるべき配合飼料の工場が、実は米国から原料の大半を輸入してきたこととも関係して、太平洋沿岸に多く立ち並んでいたため、今回の洪水でこの上もない大打撃を受けてしまい、現在、養豚業界全体における餌不足問題が深刻化しているとのことでした。

同時に、原発事故による立ち入り制限や、家畜分野に対する対応の遅れなどにより、事態は悪化の一途を辿っているため、一刻も早く復興への足がかりを付けていくことが重要であるとの認識が示されました。さらに、家畜を置き去りにせざるを得なかった農家の方々の心的ケアも不可欠であると言い添えられました。

続いて、岩手県・グリーン動物病院の田口備蔵先生からは、被災地における犬や猫の救護活動に関するこれまでの経過が報告されました。特に、動物愛護団体や様々な民間団体との協力のもと、数多くの犬や猫のケアや保護活動を展開、ペット出張診療所なども開設し、これまで出来得る限りの尽力をしてこられた様子でしたが、本来ならば被災された方々の心の寄りどころとなるはずのペット(伴侶動物)たちを、財産の喪失等により手元に置くことさえできなくなってしまう状況の深刻さが、改めて強調されました。従って、早急に何らかの支援金を支給するだけでなく、被災者に対しては、様々なペット関連サービスの割引や無料化を図り、一方で、何とか仮設住宅などにおいてもペットとともに暮らすことができるような方策を検討していくことが、何より大切であるとの提案がなされました。

そしてパネラーの最後に登壇されたのが、WRVの理事でもある馬場国敏先生でした。

馬場先生については、本誌・第77号でも紹介されております通り、東日本大震災発生直後から、一貫にて原発事故も深刻な福島県において、様々なペットを中心とする救護活動に尽力されてこられたこともあり、そうした活動の経過について語っていただきました。

特に当初から、福島第一原子力発電所から20km圏内に1万頭を大きく超えるペットが存在しているものと考えられていたため、長期的な展望のもと、粘り強い救護活動の展開していくことを強く覚悟しておられたようで、これまでの不眠不休の尽力がそれを如実に物語っているようでした。現在でも、原発事故による立ち入り禁止区域内に約300頭の犬や猫が確実に取り残されてしまっているとのことで、まずは、その全頭救出を達成すべく今後も活動を継続されていくようです。

なお、馬場先生からは、やはり野生動物への被害や影響についても言及がなされ、WRVの活動としては、そうしたことも常に視野に入れて救護活動や保護活動を展開していきたいとの抱負も述べられました。



講演中の馬場国敏理事



馬場理事の救護活動に関するパネル

以上のような4名のパネラーの方々のリレー講話のあと、改めて兵頭哲夫先生のコーディネートによる相互討論が行われ、今後の継続的な取組みの必要性が確認されたところでシンポジウムは閉会となりました。

会場に集まられた方々は、いずれも熱心に耳を傾けられ、積極的に質問に立つ方も目立ち、すべての関係者にとって、大変有意義なイベントとなったものと思われます。

WRV といたましても、こうしたイベントとの関わり合いの中で、活動目標や具体的な行動指針を改めて見直し、今後の望むべき活動の展開へと結び付けていきたいと意を新たにす次第です。

* * * * *

なお、麻布大学の大学際については天候にも恵まれ、構内のあらゆる場所が訪れた人々で大盛況な様子でした。学生のみならず、一般の方々の姿も多く見ることができ、そこかしこで、楽しげな交流の輪が広がっているようでした。

また、先にも触れました通り、WRV の新妻会長は麻布大学同窓会の交流委員を務められている関係もあり、責任者として「ペットの相談コーナー」のテントの運営に当たっておられました。そのテントにも順次相談者が訪れ、担当の獣医師の先生方が、それぞれ熱心に対応、解説されている姿が印象的でした。

終わりに、WRV には麻布大学出身の先生方も多く関係しておられますので、今後は両者の協力関係を強化しつつ、より有意義な活動を展開していけるよう、お互いに努力を重ねていければと考えているところです。



大学際・会場の様子



「ペット相談コーナー」の様子

WRV 理事である馬場国敏先生が、この度の福島県における動物救護活動の体験をもとに、物語を創作されました。この機会に是非多くの方々にご一読いただければと存じます。

■「さくら ～原発被災地にのこされた犬たち～」

馬場国敏 作 / 江頭路子 絵 定価：1,365 円（税込）

サイズ：19.4cm×15.2cm ページ：64 ページ

発行日：2011年12月 出版：金の星社

<購入方法>

※お近くの書店、あるいは金の星社（TEL：048-989-1291、
FAX：048-989-1297）にお問い合わせください。



「2011 動物感謝デー in JAPAN」参加報告

WRV会 長 新妻 勲夫
WRV事務局 箕輪多津男

秋たけなわの10月1日(土)に、東京都の駒澤オリンピック公園にて、標記の通り「2011 動物感謝デー in JAPAN」が開催されました。WRVといたしましては、一昨年に引き続き二年ぶりの参加(ブースの出展等)となりました。

当日は、会場が野外ということもあり、時折吹く突風にはやや戸惑わされましたが、天気には大変恵まれ、大勢の方々の参集が見られました。公式な発表では、その数が27,000人にも及んだとのことで、イベントの規模の大きさを物語っているようです。

会場の一画に設けられたメインステージにおいて、主催者である(社)日本獣医師会の山根義久会長の挨拶を皮切りに、盛大な開会式が催されたあと、一日のプログラムがスタートいたしました。会場内には、複数のイベントステージやアトラクションコーナー等が設けられ、それぞれにおいて動物、とくに伴侶動物と参加者との触れ合い体験や、クイズ大会、あるいは学生を中心としたアトラクションなどが展開され、どこも大変盛況なようでした。出展ブースについても、今年は東日本大震災に関わる展示などが目を引く中、全国各地の獣医学系大学や専門学校、あるいは動物関係団体による、ある種学術的な内容を中心とするものが軒を連ねる一方、各地の名産品(農業製品)を取扱うブースも数多く立ち並び、参加者もそれぞれに舌鼓をうって楽しんでおられるようでした。

当方のブースにつきましては、やはり野生動物を対象する趣旨から、会場内で数多く見られたペット連れの参加者等には、あまり関心を持っていただけないようでしたが、他方、中学生から大学院生にいたる様々な学生さんたちが多く立ち寄ってくれ、一日を通じて彼らとの交流を大いに深めることはできたように思われます。

WRVは現在、正式に(社)日本獣医師会の賛助会員として登録していることもありますので、その一員として、他の獣医師関係団体においてはあまり取扱うことのない野生動物分野の活動を中心にしつつ、今後も獣医学分野の重要な役割の一端を担い続けていくことができるよう、努力を傾けていきたいと考える次第です。



開会式の様子



会場内の大勢の参加者の様子



ブース内の新妻会長と小松理事



ブース内の新妻会長と倉林監事

「ABiCo ～Asia Birds Convention～」参加報告

WRV事務局 箕輪多津男

本年10月22日（土）～23日（日）に、わが国における野鳥に纏わるイベントとしては最大の規模を誇る「ジャパン バード フェスティバル」が、例年通り千葉県我孫子市で開催されましたが、今回はその一環として催されました標記の講演会「ABiCo ～Asia Birds Convention～」に初めて参加させていただきました。その報告を、以下に簡潔にまとめおきたいと思います。

本講演会は、通常は主に飼養鳥の適正な飼育法の普及や動物愛護、あるいは人と鳥との健全な関係の構築などを目指して活動を展開している(社)TSUBASAの主催により、我孫子駅にほど近い「アビイホール」を会場として開かれたものです。

同団体から、今回のシンポジウムにおいては、日頃テーマとしてきた飼養鳥だけでなく、ジャパンバードフェスティバルに相応しいような「野鳥」をもっと視野に入れた催しにしたいとの意向を受け、そういう趣旨ならばと改めて参加をお引き受けした次第です。従いまして、WRVといたしましては、あくまで野鳥、あるいは野生の傷病鳥獣に関わる事項に関する啓発に一役買うという姿勢で臨ませていただきました。

当日は、国内外の6名の演者による講演を主な内容とし、会場には多少の入れ換わりはありましたが、のべ100名を超える参加者があったようです。

そこでWRVを代表して、皆川康雄副会長が、二番目の演者として登壇し、約40分間の講演を行いました。内容は、現在、神奈川県で推進しているリハビリテーター制度に関わる事項をベースとするような、傷病鳥に対するファーストエイドの方法を核とするものでした。大変わかりやすく噛み砕いてお話しいただいたこともあり、日頃野鳥にはあまり馴染みのない参加者にも、大変好評をいただいたようで、飼養鳥の対応に関する技術を、いい意味で野鳥の救護に是非活かしてみたいとの意見も寄せられました。同時に大半の参加者にとって、野鳥という存在自体があまり身近でなかった様子でしたので、この機会に改めて野鳥に対する関心を持ってもらえたということだけでも、この上なく大きな意義があったものと確信した次第です。



会場前の受付の様子



皆川副会長による講演の様子

なお、今回は会場前(受付横)に、WRV の簡易ブースを設けさせていただきましたので、講演の合間や休憩時間等には、参加者の方々にも順次立寄っていただき、お互いに情報交換をさせていただきました。特に複数の方から、飼養鳥の実態や現在の趨勢などをおうかがいすることができ、いつもとはまた違った意味で、有効な情報を得られたものと考えております。飼養鳥への対応と野鳥への対応については、根本的に異なる面がありますが、有効な技術の共有など、相互に協力できる部分も多々あるものと、今回改めて痛感したところです。



会場前に簡易ブースを設置

講演会は、その日の夕刻まで続いておりましたが、WRV のメンバーは途中で会場から引き揚げさせていただき、その後は、ジャパンバードフェスティバルのメイン会場へと移動いたしました。会場となっている水の館周辺や手賀沼親水広場においては、関係団体のブースが所狭しと立ち並び、大勢の参加者で賑わっておりました。私どもも、そこで多くの関係者と再び意見交換を行うなど、楽しい一時を過ごすことができました。



ジャパンバードフェスティバル会場の様子

なお、本フェスティバルのメイン会場にて、かながわ野生動物サポートネットワーク等とともにブースを出展しておりました、WRV 神奈川支部ならびに神奈川県野生動物リハビリテーターの方々が、今年度の優れた展示内容に対して与えられる「バン賞」を見事受賞されました。日頃の活動の成果が、こうしたところにも自ずと現れた結果ではないかと思われた次第です。

WRV はこれまで、東京バードフェスティバル（本年は東日本大震災のため中止）には毎年ブースを設置しつつ参加してまいりましたが、ジャパンバードフェスティバルに何らかの形で参加するというのは、今回全く初めてのことでした。会場が少し都心から離れているということもあり、これまでは正式な参加を見合わせてきたところですが、この度の参加をきっかけに、また機会があれば、本イベントの関係団体の末席に加わっていくことも検討していきたいと考えております。

< 神奈川支部活動報告 >

日本獣医生命科学大学獣医学科 5 年生特別実習

WRV 神奈川支部事務局長 皆川康雄

本年 9 月から 10 月にかけて神奈川支部として、新たな取り組みを行いました。それは獣医系大学との実習委託業務です。この実習委託業務は、昨年度まで油汚染水鳥救護実習（今回の第 4 日）という形式で本部が対応していたものです。ところが、今年 3 月に文部科学省が「獣医学教育モデルコアカリキュラム」を公表したことから、野生動物学の分野について、日本獣医生命科学大学が独自に新たなカリキュラムを編成し、実施したいということで協力依頼があったのです。

というのは、この獣医学教育モデルコアカリキュラムの野生動物学分野の中に、「野生動物のリハビリテーション」の項目があり、実習に取り入れたいという依頼内容でした。これは当支部が取り組んでいる神奈川県野生動物リハビリーター養成の実績が評価され、このような機会を得たものと自負しております。

以下に、本業務について簡単に報告いたします。

●2011 年度 獣医学科 5 年次 野生動物学実習（全 5 日間）

※主な実施内容：○が付記してあるものは神奈川支部が担当した実習科目

第 1 日（大学）オリエンテーション／野生動物死後検査法実習

- ・病理学的検査法：死因判別、標本採取および保存法
- ・形態学的検査法：年齢査定法、繁殖状態検査法

第 2 日（大学）水鳥学講義／野生動物捕獲法実習

- ・野生鳥類（おもに水鳥）の形態的および生態的特徴
- ・各種捕獲器具の取扱い法、吹き矢の作成および射の実習

第 3 日（多摩動物公園）動物園学実習

- ・動物園における野生動物医学に関わる業務および施設についての講義と見学

○第 4 日（環境省水鳥救護研修センター）油汚染実習講義／油汚染個体洗浄実習

- ・油の特徴、油汚染事故概論、法制度等
- ・水鳥の生体を使用し、油を洗浄し、回復させるまでの実技

○第 5 日（野生動物ボランティアセンター）救護実技実習（6～7 人ごとに班分けし実施）

- ・生体および死体を使用した救護のシミュレーション実習（捕獲、保定、検査、診断）
- ・入院中のケア（餌の種類、給餌方法、ケージや止まり木の選択など）

以下は神奈川支部が担当した第 4 日と第 5 日の実習についての詳細内容です。

○第 4 日（環境省水鳥救護研修センター）油汚染実習講義／油汚染個体洗浄実習

目的：野生動物救護の実際として、油流出事故による油汚染水鳥の救護を想定し、救護施設に搬送された水鳥の扱い方から洗浄に至るまでの一連の流れを認識し、実際の救護現場で対応できるよう、知識と技術を習得することを目的とする

内容：（1）油流出事故の基礎知識（流出油の種類、性状、回収、防除等）

（2）都道府県の油汚染事故対応（救護体制、ボランティアの位置付けと役割等）

（3）油汚染鳥の救護法（油汚染鳥の救助、救命、リハビリの手法等）

（4）プール設置実習及び油の特性実験（水鳥のリハビリ用プール設置等）

（5）救護法実習（水鳥の保定、身体検査、強制給餌、洗浄及び乾燥等）



第4日の実習の様子
(水鳥救護研修センター)



○第5日（野生動物ボランティアセンター）救護実技実習
(6～7人ごとに5班分け、班ごとに1日ずつ実施)

目的：将来、動物病院等で傷病鳥獣を取り扱う場合を想定し、救護搬送された野鳥の扱い方からリハビリまでの一連の流れを認識し、実際の救護施設で対応できるよう、知識と技術を習得することを目的とする

- 内容：(1) 救護施設（動物病院等）における受入れ準備と心構え
(2) 診察手順と病状把握（捕獲、保定、身体検査）
(3) 飼育管理（ケージの選択と収容、代用食の選択と給餌法）
(4) 復帰訓練（フライングケージやプールを利用したリハビリ法）
(5) 衛生管理と消毒法

第5日の実習の様子
(野生動物ボランティアセンター)



実習終了にあたり、5年生とはいえ実際の野生動物（とくに鳥類）については、大学ではほとんど扱う機会はなく、また臨床自体もこれからということもあり、今回の実習は大変意義のあるものと感じました。来年度は今年度の反省を踏まえ、さらに充実した実習ができるように支部として取り組んでいきたいと考えております。

平成 23 年度 環境省自然環境局請負業務

「油等汚染事故対策水鳥救護研修（現地研修）」

開催案内

主 催：環境省／（請負）特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会（WRV）

日 時：平成 24 年 1 月 18 日（水）10:00～16:30（受付 9:30～）

会 場：県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛 5F 504 会議室

〒640-8319 和歌山市手平 2 丁目 1-2 和歌山ビッグ愛 5F 504 会議室

<http://www.wakayamasposhin.or.jp/big-ai.html>

対 象：地方自治体職員、環境系ボランティア団体、獣医師等、地元団体等

定 員：30 名

参加費：無料（ただし、交通費、宿泊費などは自己負担となります。）

目 的：油汚染事故発生時に、野生鳥獣保護の観点から、迅速かつ的確に対応できるよう、油汚染事故への対応、水鳥救護の方法等に関する知識を身につけ、緊急時に備えた準備の必要性についての知識を深める。

内 容：（１）都道府県の油等汚染事故対応
（２）油等流出事故の基礎知識
（３）油汚染鳥の保護・治療・リハビリ
（４）油汚染鳥の救護事例

申込方法：申込希望書類に記入の上 FAX にて

※申込希望書類については、水鳥救護研修センターまたは WRV のホームページよりダウンロードしてください。

申込締切り：平成 24 年 1 月 10 日（火）

*ただし、定員に達し次第、受付け終了となります。

申込み先：環境省水鳥救護研修センター

〒191-0041 東京都日野市南平 2-35-2

TEL 042-599-5050 FAX 042-599-5051

ホームページ <http://www.hinocatv.ne.jp/~oiled-wb/>

※今年度の現地研修会は、和歌山県や(社)和歌山県獣医師会等の協力により、上記の通り和歌山市内の会場で実施することとなりました。つきましては、特に近畿地方におられる会員の方々に、是非、ご参加いただければと存じます。

「水鳥救護研修センター」(東京都日野市) 周辺で採集された昆虫

WRV事務局 鈴木 麻衣

水鳥救護研修センターのある東京都日野市の多摩丘陵では、クヌギ、コナラといった比較的紅葉の遅い樹木も色とりどりに染まり、冬の到来を知らせています。

センターの周辺には様々な生物が生息しており、ここでは夏から秋にかけて見られる身近な昆虫から、オニヤンマ、タマムシ(ヤマトタマムシ)、コウチュウ目(鞘翅目)コガネムシ科、およびハチ目(膜翅目)ハチ亜目(細腰亜目)の昆虫標本をご紹介します。この他の標本につきましても、今後センターに展示する予定ですので、お近くまでお越しの際は、是非お立ち寄りください。



オニヤンマ：トンボ目オニヤンマ科



タマムシ(ヤマトタマムシ)
コウチュウ目タマムシ科



コガタスズメバチなど：ハチ目ハチ亜目



シロテンハナムグリなど
コウチュウ目コガネムシ科

【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者 (敬称略) (平成 23 年 9 月 1 日から平成 23 年 11 月 30 日)

○神奈川支部	2011.9.20	夢見ヶ崎動物園まつり (募金箱)	3,001 円
○神奈川支部	2011.10.12	王禅寺ふれあい動物まつり (募金箱)	290 円
○神奈川支部	2011.11.3	青葉区民まつり (募金箱)	1,873 円

事務局日誌 2011.9.18～2011.12.18

=== 9月 ===

- 18：金沢文庫芸術祭（横浜海の公園）〔神奈川支部〕 対応：皆川
19：秋の動物園まつり（夢見ヶ崎動物公園）〔神奈川支部〕 対応：皆川
24,27：日獣大獣医学科野生動物実習（野生動物ボランティアセンター）〔神奈川支部〕 対応：皆川
25：WRV ニュースレターNo.78 発行
25：東京港野鳥公園油汚染事故水鳥救護講習会 〔東京都支部〕 出席：新妻、大窪、皆川、箕輪
17～30：神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座（実践活動）〔神奈川支部〕 対応：馬場、皆川
28：第4回世界狂犬病デーシンポジウム（アリミノビル地下ホール） 出席：新妻

=== 10月 ===

- 01：2011 動物感謝デー in JAPAN（駒沢オリンピック公園） 出席：新妻、小松、倉林、須田、箕輪
01,02,09：日獣大獣医学科野生動物実習（野生動物ボランティアセンター）〔神奈川支部〕 対応：皆川
07～25：神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座（実践活動）〔神奈川支部〕 対応：馬場、皆川
07：第5回わいわいサロン（かながわ県民サポートセンター）〔神奈川支部〕 対応：皆川
12：ふれあい動物園まつり（王禅寺ふるさと公園）〔神奈川支部〕 対応：皆川
15：金沢まつり（よこはま海の公園）〔神奈川支部〕 対応：皆川
18～19：第1回油等汚染事故対策水鳥救護研修 出席：中津、新妻、皆川、箕輪、鈴木
22～23：ジャパンバードフェスティバル（千葉県我孫子市）〔神奈川支部〕 対応：皆川
23：ABiCo ～Asia Birds Convention～（我孫子市・アビイホール） 出席：皆川、箕輪
29：シンポジウム「東日本大震災における動物たちの現状」（麻布大学学園祭） 出席：馬場、新妻、箕輪
31：山際大志郎・前衆議院議員の会（憲政記念館） 出席：新妻、小松

=== 11月 ===

- 03：青葉区民まつり（青葉区総合庁舎周辺「青葉区獣医師会ブース」）〔神奈川支部〕 対応：皆川
04：東京都鳥獣保護員講習会 〔東京都支部〕 出席：新妻
05～27：神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座（実践活動）〔神奈川支部〕 対応：馬場、皆川
05～06：エコ森ワンダーパーク（金沢動物園）〔神奈川支部〕 対応：皆川
06：森とせせらぎまつり（野生動物ボランティアセンター）〔神奈川支部〕 対応：皆川
08：セイラーズフォーザシー設立記念パーティー 出席：皆川
10：元環境大臣・斎藤鉄夫衆議院議員を励ます会（東京会館） 出席：新妻
19～20：第32回動物臨床医学会年次大会（大阪国際会議場） 出席：新妻、須田
20：野生動植物保全フォーラム（厚木市文化会館）〔神奈川支部〕 対応：皆川
22～12/03：（社）東京都獣医師会・小笠原動物医療派遣団 参加：大窪
23：相模川釣り針釣り糸調査（相模川）〔神奈川支部〕 対応：皆川

=== 12月 ===

- 01：農林政務官・吉田公一衆議院議員の会（練馬西青申会館） 出席：新妻
02：第6回わいわいサロン（かながわ県民サポートセンター）〔神奈川支部〕 対応：皆川
03～16：神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座（実践活動）〔神奈川支部〕 対応：馬場、皆川
05：菅原一秀衆議院議員の会（京王プラザホテル） 出席：新妻
06～07：第2回油等汚染事故対策水鳥救護研修 出席：中津、新妻、皆川、箕輪、鈴木
10：野生動物救護獣医師協会 講習会 〔東京都支部〕（新宿ローズガーデンホテル） 出席：田向、新妻、大窪、皆川、小松、倉林、小森、箕輪、鈴木、箕輪
11：トビ観察会（よこはま海の公園）〔神奈川支部〕 対応：皆川
12：愛鳥懇話会 出席：新妻、箕輪
17：講演会「イトネア・スマトラ島のオランウータンを救おう！」（東京環境工科専門学校） 出席：皆川、新妻、箕輪、鈴木

野生動物救護獣医師協会（ホームページ）<http://www.wrvj.org/>（E-mail）kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 79 2011.12.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：皆川 康雄
